



SOCIETY FOR INFORMATION DISPLAY

ニュースレター

日本支部

第15号

発行元：SID日本支部
発行責任者：前田 誠
発行日：2000年9月15日

SID日本支部長メッセージ

SID日本支部長 前田 誠 (ソニー)

5月のLong beachでのSID conferenceが盛大に開催されました。

5月のconferenceでは本部役員の選挙の結果が報告されました。Presidentには Aris Silzars が就任です。日本からは御子柴茂生先生が Secretary に選出されました。

本部の役員にはこのほか現在は岩本明人氏が Asia Vice President として活躍中です。日本の重要性が高まるなかお二人の今後のご活躍を応援したいと思います。

また conference 初日に種々の SID awards の授賞式がありました。別掲のように日本支部の大勢のかたがたが受賞されました。おめでとうございます。



M. Maeda

今後9月には IDRC Palm Beach Florida、10月 ASID Xian China、11月 IDW 神戸と目白押しにディスプレイ国際会議が予定されています。詳しくは SID home page <http://www.sid.org/> をご覧ください。

ASID (6th Asian Symposium on Information Display) は初めて中国で開催されます。日本からの多くの投稿を含めすでに 139 件の投稿があったと聞いています。IDW は御子柴組織委員長のもと着々とその準備が進んでおり日本内外から 1000 名の参加者が見込まれています。

今後Displayの技術はますます国際化していきます。皆様のご活躍をお祈りします。学生会員の発表の機会を増やすため日本支部で「学生の旅費支援制度」を発足させます。詳細は4ページをご覧ください。

IDW開催計画

苗村 省平 (メルクジャパン)

IDW '00 :

2000年11月29日 — 12月1日, 神戸
Asia Display / IDW '01 :

2001年10月16日 — 19日, 名古屋

今年から IDW は、SID が主催する三つの国際会議のひとつとして明確に位置付けられました。春の SID と秋の IDRC、そして初冬の IDW です。ディスプレイの研究者、技術者、産業関係者等にとって、研究開発の最先端を討論し、製品・市場の動向を知るのに欠かせない場として、名実共に重要な国際会議となっています。今までにも増して大勢の方々が参加し、成果発表、討論、情報交換をされることが大いに期待されます。

今年は、11月29日から12月1日まで、神戸国際会議場を中心に開催されます。日本支部創設 25 周年の記念行事も計画されています。もうカレンダーはチェック済みでしょうか？ふるっでご参加ください。



S. Naemura

そして来年は、IDRC もアジアにまわってきます。Asia Display です。前回はじめて日本をはなれて韓国で開催されたわけですが、来年は日本開催が SID 理事会で決定されています。日本支部で議論を重ねた結果、2001 年は Asia Display と IDW をひとつの会議として開催することになりました。会期も 10 月 16 日から 4 日間と例年の IDW より 1 日長くなります。場所は名古屋国際会議場です。ワークショップを主体とした例年の IDW の形態を基本としながらも、従来の IDW がカバーする分野からさらにスコープを拡大して、より充実したディスプレイの国際会議となるようにすでに開催準備が進められています。論文投稿の締め切りは来年の 5 月 30 日を予定しています。今年の IDW'00 の準備がおわりましたら、次は来年 6 月 San Jose での SID、そして 10 月の Asia Display/IDW '01 です。研究開発と会議参加のスケジュール、いまずぐチェックしてください。

ディスプレイの今と未来がみえる IDW です。日本支部全員参加の国際会議としましょう。

2000年度SID受賞者の声



S. Kaneko

Fellow of the SID

金子 節夫 (日本電気)

For contributions to the research and development of amorphous- and polycrystalline-Si TFT technologies and TFT-LCD monitors

今回、TFT および高精細 TFT-LCD モニタに関する一連の研究開発に対して受賞いたしました。この研究は、私が 1975 年に NEC に入社して 2 年後に a-Si 材料の研究が始まりです。その後、イメージセンサ、TFT への応用研究、さらには、量産技術開発を経て、高精細 TFT-LCD モニタの開発など、幸運にも基礎から応用デバイスの一連の活動に携わってきました。その観点からも、今回の受賞はこれら技術開発に関連した NEC の研究所および事業部門の技術者と一緒にいただいたものだと思っています。



H. Oshima

Fellow of the SID

大島 弘之 (セイコーエプソン)

For contributions to development of polycrystalline-Si TFT-LCDs

20 年間に及ぶ一連のポリシリコン TFT-LCD の研究開発活動に対して、SID Fellow をいただきました。SID 日本支部の先輩諸氏をはじめ、関係の皆様方に心よりお礼申し上げます。高温ポリシリコン TFT-LCD に始まり、最近の低温ポリシリコン TFT-LCD に至るまでの長い道のりを支えていたのは、技術者としての信念と、頑固にも似た執念、そして周囲からの多くの支援だったように今更ながらに思います。まだまだ道半ばですので、社会に貢献できる技術に仕上げていきたいと思っています。



S. Ibaraki

Special Recognition Award

茨木 伸樹 (東芝)

For development of amorphous- and polycrystalline-Si TFT materials, device processing, array structures, and TFT-LCDs

1981 年にアモルファス・シリコン薄膜トランジスタ(a-Si TFT)に魅せられて首を突っ込み、大型液晶ディスプレイを作りたいと、わき目も振らず開発一筋で過ごしてきました。1995 年からは、ポリシリコン(poly-Si) TFT 開発にも着手しました。この 19 年間、社内外の多くの方々のご指導とご協力を仰ぎ、みんなで作り上げてきた成果の一つ一つが今回の受賞につながったものと考えております。この場をお借りして、あらためて関係各位の皆様に感謝したいとともに、これからの液晶ディスプレイの益々の発展に尽力したいと思います。



S. Naemura

Special Recognition Award

苗村 省平 (メルクジャパン)

Special Recognition Award をいただきました。受賞理由は“For research and development of liquid-crystal materials applications in a wide variety of LCD structures”です。学生時代から四半世紀あまり、ほとんどすべての方式の液晶ディスプレイを対象として、それぞれに適した液晶材料を探索し、その開発に携わってきました。この間に指導をいただいた先生方や諸先輩、そして研究開発に協力をいただいた皆様方のおかげと感謝しております。ご推薦をいただいた日本支部の皆様にも感謝いたします。



T. Sugawara

Special Recognition Award

菅原 恒彦 (旭硝子)

For innovative contributions to the development of flat and lighter weight glass bulbs for CRTs

思い掛けずに名誉な賞を授かりましたが、ディスプレイを下支えする部材屋として大変光栄であります。箱型構造の CRT ガラスを強化し軽量化することは、それなりに難しい課題が山積し、味のある開発ではありました。今、フラットディスプレイの存在感が日増しに強くなっています。しかし、CRT は今以上に魅力あるディスプレイに变身しながら生き残ると確信しています。

これからも、新しい CRT の創出にガラス屋なりの工夫で一役買えるようにしたいと考えています。



T. Tohma

Special Recognition Award

當摩 照夫 (東北パイオニア)

For development and commercialization of multi-color electroluminescent devices

この度、思いもよらず大変名誉ある賞を頂き、感激しております。幸運にも数多くの良き仲間恵まれ、有機 EL ディスプレイの世界初の量産化に成功できたのは、本当に夢のようです。SID 日本支部の各位をはじめ、ご指導頂いた皆様に心より感謝申し上げます。有機 EL は課題が山積しております。その解決に少しでも貢献すべく微力を尽くす所存です。

「発光型・非発光型ディスプレイ合同研究会」講演募集

SID日本支部会員関連行事予定

日 時：2001年1月25日(木)～26日(金)
 場 所：佐賀大学
 講 演 内 容：LCD(バックライトを含む)、CRT、EL、PDP、
 VFD、FED、ECD、放電管などのディスプレ
 イに関するデバイス、部品・材料及び関連・
 応用技術
 (口頭発表 10 分付ポスター講演を予定)

申し込み締切：2000年11月6日(月)

申し込み方法：ファックスまたは葉書で、(1)題目、(2)講演者
 名、(3)連絡先(所属、住所、電話番号、FAX 番
 号、E-mail アドレス等)、および「発光型・
 非発光型ディスプレイ合同研究会講演申し込
 み」と明記の上、お申し込みください。(予稿
 原稿の締切などの詳細は、お申し込み受付後
 事務局からご連絡いたします)

申し込 先：ハリソン電機(株) 放電灯 BU 高木 将実

〒794-8510 愛媛県今治市旭町 5-2-1

TEL：0898-23-9859

FAX：0898-23-0470

E-mail：masami.takagi@harison.co.jp

問 合 せ 先：ハリソン電機(株) 放電灯 BU 高木 将実

松下電子工業(株) 照明開発センター 前田 和男

〒569-1193 大阪府高槻市幸町 1 番 1 号

TEL：0726-82-7897

FAX：0726-81-3780

E-mail：maeda@ltd.mec.mei.co.jp

共 催：照明学会 光関連材料・デバイス研究専門部
 会、電子情報通信学会、電子ディスプレイ研
 究会、映像情報メディア学会 情報ディスプ
 レイ研究会、SID 日本支部

2000 年

9 月 25 日～28 日 IDRC '00, フロリダ

10 月 6 日 IDW '00 Late-News Paper べ切

10 月 18 日～20 日 ASID '00, 西安

10 月 25 日～27 日 液晶学会討論会, 松江市

11 月 1 日～2 日 画像入出力合同研究会, 東北大

11 月 IDRC '00 報告会, 東京

11 月 16 日～17 日 高臨場感ディスプレイフォーラム,
 東工大

11 月 29 日～12 月 1 日 IDW '00, 神戸国際会議場

12 月 SID 日本支部総会、評議委員会, 東京

2001 年

1 月 25 日～26 日 発光型・非発光型ディスプレイ合同
 研究会, 佐賀大学

1 月 30 日～31 日 「映像メディアと一般」研究会, NHK
 札幌



SID 日本支部学生会員への成果発表旅費支援制度

2000 年 6 月 12 日

- 1) 制度の目的：SID 日本支部の健全な発展と SID 日本支部の学会活動の活性化を図る事を目的に、SID 及び SID 日本支部主催（共催を含む）学会（会合）での成果発表を行う学生会員の参加に必要な旅費を一部支援する。
- 2) 対象学会・会議名：SID 及び SID 日本支部が主催・共催する下記学会：ASID・IDW・IDRC、及び下記選考委員会で必要と認めた学会・会議。
- 3) 旅費補助額：補助額は、学生員が実際に必要とする旅費を超えない範囲とする。
- 4) 補助の対象：旅費として、宿泊費を含む事ができる。
- 5) 対象学生：上記対象学会にて研究開発報告（含口頭発表）を行う SID 日本支部に所属する学生会員。
- 6) 対象学生の選考：下記選考委員会において対象学生員の選定を行うこと。
- 7) 選考委員会：日本支部役員及び支部長が委嘱する適当数の正会員とで構成され、半数の出席により、会は成立するものとする。ここで、支部役員とは、支部長・副支部長・会計幹事・同補佐・庶務幹事・同補佐とする。
- 8) 申し込みと日限：、制度適用を希望する学生名、連絡先（住所・電話等）等を明記した申請書を、指導教官等の推薦状を添付し、庶務幹事宛申請する。規定会合の開始日から逆算し 30 日前を持って締め切るものとする。
- 9) 支払い（代理受理の禁止）：支援費用は、当該学会開催中に、本人を確認できる学生証等の提示を以って、手渡される。代理は認めない。
- 10) 権利の放棄：規定会合期間中に受領の申し出の無かった対象者は、権利を放棄したものとみなす。
- 11) 多重受給の禁止：他に SID シンポジウム、或いは他の SID 支部の旅費支援制度を受けている学生は本制度適用外とする。
- 12) 氏名の公表：本支援制度の適用を受けた学生の所属・氏名・成果題目等は、適宜支部出版物等で公表する。
- 13) 成果物発表のプライオリティ：本支援制度の適用を受けた論文の刊行物としての発表の場としては、SID 関連出版物を第一優先とするよう求め、制度適用時にその旨確認する。

以上